



静岡・静岡同窓会  
会報 第46号  
平成10年12月15日発行  
編集人 上 杉 重 吉

## 村松友視さんのこと

70期 三 木 卓

(本名 富田三樹)

今から三十五年ぐらい前、ボクの奥さんが中央公論社の臨時雇いの校正者をしていたことがあった。最後の追い込みの三日乃至四日の助っ人というわけだが、ある日、「小説中央公論」誌の仕事をして帰ってきたときにいった。

「黒いコートを着て、黒い背広を着た編集者がいて、ときどき机の上で寝ているの。村松梢風さんのお孫さんだって聞いたけれど、なんだか孤高の人というか、さびしそうというか、気になる人よ」

「ふーん」  
ボクはいった。当時の「小説中央公論」は野坂昭如が完

りだし中というところだったから、ほんとうに昔の話だ。

「あなた、村松さんは静高出身ですってよ」

「ああ、そうなのか。じゃあ先輩かなあ」

「あなたよりずっと若くて、ハンサムよ」

「ふーん」

というわけで、村松友視さん(75期)に出会ったのは、ボクよりボクの奥さんの方が先、ということになる。

それから十年ぐらいして、ボクは小説書きになつていて文芸雑誌「海」編集部にいた村松さんに会い、いくつも実

験的な小説を書かせてもらっ

た。ボクの小説は売れるものでも華やかなものでもないが、かれは終始好意的にボクの作家的運命がこれ以上傾かないように支えてくれた。当時のかれは唐十郎の前衛演劇に深い関心をもっていて、ボクも一度、テント小屋の劇場へつれていってもらえたが、かれの舞台芸術や芸能に対する親愛の気持を知ったのは、そのときがはじめてだった。

やがて村松さんは「私、プロレスの味方です」を書いて、これが猛烈におもしろかった。能ある鷹は爪を隠す。そうだったのか。ぼくは銀座の「レバント」で感想を語ったが、既にかれは一人前のもの書きになつていてと思つていた。だから、その後かれが直木賞や泉鏡花賞をとったのも、当然だと思つている。

以来、硬軟とりまぜてつき

## 〈誌面から〉

- 総会・懇親会報告、新旧会長ご挨拶
- 米寿を祝い、百回めの43期同期会
- 55期、56期、64期、77期の同期会
- 静岡の万葉を歩く(その十七)
- 静岡だより
- 野球部、十九年ぶり選抜出場有望

〈読後感をぜひお寄せください〉

- ② ④
- ⑦ ⑨
- ⑪ ⑬
- ⑭ ⑮

## 朗報

### 静岡野球部 19年ぶり 来春の選抜大会出場「当確」!

学校創立120年を迎え、野球部は明治29年に活動を開始して102年目にあたる――

新チームは県大会で優勝、東海4県大会で準優勝!

## 出席者一同、懇談の実！ 平成十年度（第24回）総会・懇親会

七月十七日（金）、久しぶりの七月開催でしたが、平成十年度関東同窓会（第二十四回）の総会が六時三十分より恒例の会場、新日本証券大食堂にて行われました。

総会はずまず校歌を高らかに斉唱して始まりました。

大石巖関東同窓会会長（53期）より挨拶があり、現在の日本経済の沈滞と今後の動向

などの話と共に二、三年來の懸案だった組織若返りを本日より議題として審議していただくよう提案がありました。

続いて来賓として出席していただいた本部同窓会校井一男副会長より、祝辞と平成十五年の母校創立一二五周年事業の件で話があり、準備状況と協力の依頼がありました。また母校校長代理として出席

の梶節夫教頭先生より母校の現状、特に女子生徒が四割に達しているという報告がありました。

なお本部同窓会より蔭山昌弘幹事も出席されました。

議事に入り、平成九年度事業報告、決算及び監査報告、平成十年度事業計画並びに予算案が、各々承認・可決されました。

来賓、40期代の皆さまもご健闘！

規約改正では一部役員の名称変更

の提案がされ、承認されました。次いで役員改選に移り、大石巖会長・奥野孝副会長の勇退、新会長に奥沢徹氏（59期）、副会長に上杉重吉（60期）田中俊男（66期）野方重人（77期）三氏を選出、他に監事、理事を選出して、大石前会長・奥野前副会長には顧問に就任していただくことになりました。

退任された大石前会長より挨拶があり、奥野前副会長と共に今後とも関東同窓会をバックアップするという力強い話がありました。なお、ここで同窓会より長年の両氏のご苦勞に対し、感謝を込めて記念品を送りました。

次いで奥沢新会長より、これから若い力を集めて関東同窓会を盛り上げて行きたいとの就任挨拶がありました。

最後に校歌合唱、さらに応援歌・逍遙歌も歌い、和気あいあいの内に閉幕となりました。（77期 野方重人記）



母校教頭の梶 節夫先生



静岡から出席の桜井副会長（64期）



「乾杯！」70余の年齢差も関東同窓会ならではの！

## 退陣の想い

53期 大石 巖

関東同窓会の会長を宮澤次郎さんから引き継いで、こんど奥沢徹さんをお願いするまで、九年ばかりの時が経ってしまつた。「早くて長い」年だった。

時あたかもバブルが崩れはじめ、世界第二位を自他ともに許すまでに成長した経済力が、その心臓ともいえる「金融」に公的資金の限らない補給をしなければならぬ惨状に落ちこんだ時期になる。

繁栄経済を支えた大企業から中小企業まで、そして、そこで働いた個人まで、その存亡と雇用までが不安におびえる破目となっている。こんな時にこそ同窓会が、その同志的なつながりを利用して、同憂をなぐさめ合い、明日への希望をつなぎ合うような機能を果し得ればよいのだが、現実には何も出来ない。

副会長、幹事など同窓会運営に参画して、身辺の多忙を排して努力していただいております姿はこの眼でしっかりと見ている。いろいろな案も

出され、試行錯誤をくり返しながら活動を強める工夫もいくつかあった。しかし同窓会の活性化はむなし願望の連続といわねばならなかった。

私自身の指導力、行動力の不足については弁解の余地はないと責任を感じている。これではいかんと自分を叱りながら責任を果たすように努力もしたのだが、どうにもならない情無さを嘆くことばかりだった。生来直感的な「ひらめき」とか「感じ」とかを重く見て行動するタイプの私にとって、こんどの変化のすさまじさは驚きであった。世の中はひらめきや感じとは反対に動き、遂にはノー感じになつてしまつた。グリーン上のパターで味わうトンチンカンあの感じである。

それでも私は、日本の将来の再興に確信をもっている。と同様に、わが同窓会の存続と隆盛を信じている。その根拠は、若い人たちのもっている自由な発想とバイタリティーが、この困難のさ中にある。あ、あれこれ垣間見られるからである。

奥沢さんの執行部にも、若

い層の参加がにわかに積極的になっていくように見える。再び元にもどる世の中ではなく、新しいシステムの構築の中に、いかに適応した組織とその運営を固めるか。そこに活路がある。

無能と無為に終始した私を支えていただいた皆様に心から感謝するとともに、改めて奥沢さんを助けて、自助自立の精神を高めることによって関東同窓会を立派に育て上げて下さい。

旧交を暖めるチャンス……

世代を越えて話がはずむ……

次回も友と誘い合ってぜひ！



ヤングパワーの結集で  
関東同窓会の活性化を期待！



## 新会長に就任して

59期 奥沢 徹

去る七月十七日に開催されました平成十年度の総会に於て大石巖（53期）会長の後任として不肖私がその役職を継承することになりました。



当会は一九七五年（昭和五十年）東京会館に於て結成総会が行われ発足し、以来二十三年を迎えることになりました。

初代会長には宮澤次郎（42期）先輩が就任されましたが、そのご挨拶に「私達が年齢を忘れ、仕事を離れ、いつまでも中学生（高校生）でいられる、心から楽しい会がこの同窓会であり、忙しい都会の中にいながら、共通のふるさと「静岡」の地に心を帰らせることのできるのも、この同窓会のおかげだと思います。」と語られました。

又、平成元年大石巖先輩が二代目の会長として就任され

た時には「同窓会とは人が生きていく過程で、友人“仲間”といった人間関係がどれほど大切なものであるか——これは理屈ではなく、現実には思い知らされる事柄のいかに多いことか。そうした人間関係を構築する一つの有力な道具として役立つものであつて欲しいと思う。久しく顔を合わせることがなくても、僅か十分でも語り合えば、昔のままの本性が丸出しになり、お互いに胸襟を開くことが出来る。これが横の糸とすれば、縦の糸は連綿と続く先輩、後輩のつながりである。」と述べられました。

このお二人の立派な指導者に加えて、特に奥野孝（53期）前副会長のご努力により、関東同窓会の今日の発展がなされ、広域支部としての存在が高められたのであります。私どもは今後益々この良き同窓会を愛すると共に、輝かしい伝統に恥じぬよう努力しなければならぬと思います。

昨今の日本経済は嘗てない不況のどん底にあり、そのためか最近、会の運営に必要な会費の納入者の減少が目立つ

てきました。そこで今年になってから若い期のやる気のある同窓に声をかけ、私ども役員と一緒にやって会の活性化について頻繁に会合を開き、総会迄に役員に若手を起用し現在幹事のいない期を対象に役員を動員してその期の有力な人物の発掘に力を入れるような体制づくりを始めましたので、是非共ご協力下さいますようお願いいたします。

現在関東同窓会は大學生を含めて二九〇〇名の会員を擁し会報も年二回発行を続けております。今年度の総会に於て会則の一部を改正し、三名の副会長、上杉重吉（60）君に会報、田中俊男（66）君に会計、野方重人（77）君に総務を夫々担当して頂き、監事には後藤弘枝（71）君、鳥巢修（89）君、そして十二名の若手理事が事務局担当の薬科名雄（87）君を中心に夫々の実務を担当する事になりました。又、印高会ゴルフは今



後荒谷じつ子（68）理事が新日本証券本社秘書室の山崎さんに代つてコンペのお世話を担当する事になりました。山崎さんには永い間同窓会運営のために大変お世話になりました。心よりお礼申し上げます。

## 新役員一覧

（平成十年四月より。任期三年）

会 長 奥沢 徹（59期）

副会長 上杉 重吉（60期）

田中 俊男（66期）

野方 重人（77期）

荒谷じつ子（68期）

大長 智（70期）

浦田 彰（71期）

清水 雅尚（77期）

三浦 位通（77期）

深津 俊郎（85期）

石川 嘉和（87期）

高橋 宏（87期）

薬科 名雄（87期）

新村 暢宏（89期）

荒井 千明（90期）

村松 秀明（91期）

後藤 弘枝（71期）

鳥巢 修（89期）

## ◎事務局より（その二）

三代目会長奥沢氏のもと、新役員も決まり今まで以上に張り切つて同窓会のお手伝いと思っていますのでよろしくお願いします。

新規会員の発掘も積極的に行なっておりますが、特に90期以降の方で住所不明のままの方が多く見受けられます。お手数でも年賀状などを通してつきあいがある同期生の方の住所を、ぜひとも事務局あてご連絡ください。

最後に大石会長の永年のご苦勞に対し衷心より感謝の意を表するとともに、関東支部の益々の発展と会員諸兄のご健勝とご活躍をお祈り申し上げて会長就任のご挨拶とさせていただきます。

## Ⅱ 各期幹事一覽Ⅱ

幹事が変更の場合は事務局までお知らせください。特に幹事未定の期は至急選出してご連絡を！

- |                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| 42...岩波信平                  | 69...宮崎吉英・山本龍男            |
| 43...西沢純三 44...高橋真一        | 70...大高源之丞・大長 智           |
| 45...鈴木弥門・田附敏三             | 71...児玉文男・後藤弘枝・海野 幸雄・篠原 直 |
| 46...西 静男                  | 72...桜井亮介・深田 均            |
| 47...杉山栄一 48...原崎進一        | 73...山中博司                 |
| 49...菅沼 栄・杉本久敬             | 74...佐藤鍾司・藤原經史            |
| 50...丸尾文治 51...佐伯正剛        | 75...後藤正義                 |
| 52...服部雅雄・廣川 聰             | 76...酒井孝太郎・鈴木 浩           |
| 53...奥野 孝・山菅章雄・月見 里得知郎     | 77...野方重人・三浦位通・清水 雅尚      |
| 54...居初良雄                  | 78...鈴木藤男 79...上田尚亮       |
| 55...相川富士雄・法月重雄            | 80...古野卓史                 |
| 56...清水逸郎・萩原達雄             | 81...鈴木素明・萩原英昭            |
| 57...岩井平一郎・影島利邦            | 82...杉本三郎・堀内淳司            |
| 59...青木静男・奥沢 徹             | 84...浅川祥子                 |
| 60...上杉重吉・堤 崇・山本雅 之助       | 85...池田幸司・増井喜一郎・深 津俊郎     |
| 61...大石次男                  | 86...成岡和美・井出慎吾            |
| 62...63...木下景一             | 87...薬科名雄・石川嘉和・高橋 宏       |
| 64...65...野沢正憲・渡辺素夫        | 89...鳥巢 修・新村暢宏            |
| 66...田中俊男                  | 90...荒井千明・小林一郎            |
| 67...朝比奈正三・梶原由三・成 岡英彦      | 92...山野直文・村松秀明            |
| 68...高橋俊見・荒谷じつ子・大 川庄治・雨宮明生 | 93...岡村幸彦・望月 朗            |
|                            | 94...松野敦子                 |
|                            | 96...奥田規之・細沢 優            |
|                            | 97...藤森 尚                 |

## 関東同窓会の益々の発展をめざして……

同窓会員の親睦をはかるため、幹事のみなさんの格別のご尽力に心から感謝申しあげます。

混沌たる社会情勢、多忙な毎日と思いますが、幹事は特に同期生へより一層の呼び掛けをしていただきたく、また、会員諸兄姉は幹事へのお力添えを熟望いたします。

とくに会員数も多い75期、113期は、年会費納入など、期によって大きな差があります。が、ヤングパワーに期待すること大、よろしくご協力ください。

建設的なご意見や参与を、そしてひとりでも多くの年会費の納入など、ぜひ積極的なご協力を！

## その後の同窓会活動

(平成10年5月・11月)

## ◇役員会

5月13日(水)

副会長4名、新宿の「北海道」にて協議

## ◇第17回叩高会ゴルフ会

5月25日(月)

## 箱根カントリー倶楽部

参加者：15名

優勝：佐野 旭(64期)

2位：小沢皎二(67期)

3位：天野 昭(61期)

## ◇役員会

5月26日(火)

若手の5名集まり協議

## ◇「会報」45号、6月19日に

出来、発送す。

## ◇役員会

7月7日(火)

12名集まり総会準備など

## ◇第24回総会

7月17日(金)〈別掲〉

## 第17回 叩高会

ゴルフに優勝して

64期 佐野 旭

平成十年五月二十五日、朝

自宅を出るときは大雨でした。

箱根路にかかると一面の濃霧、

コースに着いても一向に晴れる

気配がなく、参加者一同や

やためらっていました。

「ガスで中止になった経験は

ないヨ！」との大石会長(53)の

言葉に押されたかのように、

ガスも切れはじめ、勇躍スター

ト致しました。

私のパートナーは天野昭(61)、望月芳郎(68)、清水雅尚(77)三氏、

## ◇役員会

8月10日(月) 6名出席し、

新体制につき協議。

## ◇役員会

9月29日(火)

新役員を含め15名出席。

今後の運営などを協議。

## ◇役員会

11月12日(木)

6名出席し、協議。

## ◇平成10年度定時総会

11月14日(土)

ホテルアソシア静岡

奥沢会長出席

何れも歴戦の猛者達で、小生は一年前の栄えあるブービーを思い出し、若干緊張気味でした。

さて、1番ホール三八〇ヤード、「肩の力を抜け！」と言いきかせた一打はフェアウエー右サイド、まずまずの朝イチショットで気分が良くなった上に、第三打が出来すぎの寄せでパー。

「出だしは上々」とその気になるのが素人の何とか、2番一四〇ヤードの第一打は、ダイレクトに池ボチャ、心を入れ替えた第三打は見事ピン

横30センチに寄ってボギー。など好運を味方にして、アウト45と出来すぎの好スコア。

昼食時の四方山話とアルコールで、心身共に燃料を積み込んで、10番一六三ヤード、酔眼でエイヤッ!と打てば、見事にオン。「しめた!!」午後



も調子いいぞ」と浮かれた途端に4パット。早くも馬脚をあらわす。

11番ではフェアウェイを一度も歩かずボギー。14番はバンカーにつかまり、出すのがやつと。16番では、バーディー逃しのパー。などなど、燃料の効果は吉凶相半ばしたもの

の、いつものOBもチョロもなく、パー1、ボギー3、ダブル3、トリプル2、とデパート並の品揃えでインは何とか50に収まり、優勝と言うには恥かしいスコアでしたが、ハンディのお蔭でトロフィーを手

したたる大自然の中で野鳥の声を聞きながら、本当に健康的な一日を過ごすことが出来ました。

こうして、先輩、後輩の皆様方と楽しいゴルフが出来た事は何よりの幸せと感謝致しております。

今後「二度と優勝出来ないハンディ」となりますが、たのしみながら「ゴルフもどき」に磨きをかけたいと思います。

最後に会長始め、毎回お骨折り頂いている上杉先輩(60)、新日本証券の山崎弘子さんと運転手の斎藤さんにこの稿をお借りして厚く御礼申し上げます。

有難うございました。

## こ え

この欄は「もう一つの総会」——気軽に筆を執り、送ってください。

53 木宮 高彦

五月下旬、取材のため再度伊賀に赴き、忍者の里喰代などを訪ね翌日は奈良の秋篠寺をはじめ諸寺や平城宮跡などを巡ってきました。なお、今夏左記事務所に移転しました。

港区赤坂三丁目九一八

ランディック赤坂見附ビル3階

アクト法律事務所

60 黒田武之助

日本橋に定住して十三年以上になりました。政府開発援助(ODA)の仕事で、また現役、がんばっています。

67 矢部 隆

非常勤(約半年働く)で、海外での技術指導を続けています。

68 塚本 浩司

会報44号はたいへん興味深かったです。66期石川創二氏、67期向井久和氏、68期鈴木俊彦氏、69期山本龍男氏、70期大高源之丞氏と、「回想・随感・近況など」のページに、城内世代の中から続けて五氏が並んでいる。はからずも、三菱校舎から城内校舎へ移転するときの機をかついでの行列を思い出し

## 「悪友の条件」 村松友親著

恋人と別れたのを機に東京を離れ、卒業以来十年ぶりに学生時代の親友蘭子がいる静岡を訪れた小夜子。三十歳すぎて未婚同士、ふたりの友情は復活する。

駿河地域誌の編集と一緒にするうちに、小夜子は陰ある男に惹かれていく……。恋愛小説としても、友情を描いたものとしても楽しめるが、舞台は静岡ノ。そして悪友(?)はぜひ欲しいもの……。

(講談社・二二〇〇円)

た。諸氏の御健勝を心から祈る。

71 篠原 直

株式会社ごま書房は皆様のご支援のもと、十月から新体制に移行し、次の新事務所に移転しました。

新宿区水道町一十九

新居区水道町一十九

江戸川橋STビル5F

(03・3268・0451代)

72 深田 均

この三月をもつてわれわれ同期生は満60歳、総会にはぜひともにぎやかに駿河台に集合したいと思っております。

76 鈴木 浩

そろそろ甲子園の野球大会に出場してほしい。同窓会のお役に立てずに申しわけございません。

## ◎お詫び：平成9年度の年会費

提出者のうち、73期の左記の方々

の掲載もれ(会報45号)がありました。

深くお詫びする次第です。

山中博司、仲川信正、望月 智、

安藤頼男、鈴木良明、大村春樹、

松永文夫、榎原由之、宗像純司、

大村康平、近藤 守、小山武夫、

鈴木久弥、大石堯史、望月公美、

山梨由記、松下勝朗、小柳忠義、

羽山 武、山下茂支、鈴木智彦、

山本一雄、服部信司、三枝通康、

杉山正三、鈴木 豊、有光一郎、

柴山欽伍、杉山 光、永井敏夫、

大村 博、三浦英夫、牧野昭雄、

山口 進、後藤 宏、岩崎秀隆、

中川明久、山本昌秀、望月 篤、

石川八洲夫、青木俊一郎、

佐々木勝彦、西沢秀雄

## ◎事務局より(その二)

関東同窓会の円滑な運営のため平成10年度年会費(三千元)の納入をよろしく願っています。

同封の振込用紙で、ぜひぜひご協力ください。なお用紙は会報の

毎号に年会費の納入済み、未納にかかわらず同封しておりますこと

ご諒承ください。

宛先不明のため、会報返送が毎

号多数あります。住所変更の場合

至急ご一報のほど願います。

## 同期会 など

## 四三期

四三会員は明治四十三年生れで、目出度く米寿を迎えることができた。五十年以上続いたクラス会も今回で百回目を迎えることができ、更に二百回目の三笑会(毎月二十日に開く昼食会)を加えて合計三百回目の大会である。

当日は静岡在住の磯谷幸一郎、河村亮、高須彰、見原三郎の四君が待ちかまえており、遠くは広島市の熊切達治君が、東京からは倉沢栄吉、嶋田富治雄、柳沢保雄、吉江誠一の四君と私の五名が参加した。地元の大石辰枝(三笑亭)、迫藤阿似子、小杉昌子、内藤

この記念すべきクラス会を平成十年九月二十四日、静岡の三笑亭で開催した。



## 米寿を祝い、100回目の同期会

— 昔の写真や思い出話で盛り上がる —

〈先輩を見習って、同期会を開きましょう〉

あつ子、松岡文子の五夫人がゲストとして出席されたので、総計十五名の会合となった。静岡新聞社の女性記者が取材に見え、幹事の見原三郎君がインタビューに応じた。一同の写真も撮影、翌日の朝刊の「ふるさと静岡」で報道されたが、静岡中学昭和三年卒業生の五十年以上続くクラス会——確かに取材に値する話題であろう。

開会前のひとときも七十年ぶりの人もあり久闊を叙して話題もはずんでいた。

見原君の開会の挨拶に始まり、物故された級友の冥福を祈って黙祷を捧げた。続いて県内級友の近況、母校創立百二十五周年記念行事に対する報告があり、熊切君の音頭で乾杯し楽しい開幕となった。

三笑亭心尽くしの懐石料理と銘酒に若返って、お互いの近況の報告があり、健康や家族の話がされたが、一番の元氣者は倉沢君、国語学者として相変らず講演など活躍している。続いては高須君で世界を股にかけてのマラソン人生だ。吉江君も未だに現役でゴルフもやり、絵画の趣味もある。

りお上手である。嶋田君も健康で博物館・美術館巡りをやり俳句もお上手である。柳沢君も丸和証券の相談役で絵画もお上手でゴルフもやられていた。河村君も元気で三笑亭の常連である。広島熊切君は安田屋ホテルで一泊して久しぶりの静岡の故郷を楽しまれた。体調をくずされていた磯谷君も元氣になられたことは誠に喜ばしいことである。

見原君も三洋電機の代理店をやったり、現在は東京海上火災の代理店で頑張っている。

私も嶋田君のお供で各種展覧会を見物したり、品川区のシルバー大学で文学や歴史を学んだり、近くの公園でゲートボールを楽しみ、たまに老人ゴルフをやっている。

五人の夫人方も皆お元氣で、お目出度いことである。二〇世紀も僅か八百日である。是非お互いに元氣で二十一世紀を迎えてから故人への土産を沢山持つていきたいものである。御主人方の御冥福を祈ると共に御家族の御健康を祈った次第である。

会員も高齢となり、百七十三名いた会員も今は二十七名

となり、この大会を最後の良き思い出の会として定期的な会合はしないことになった。「有楽町で会いましょう」をまねて「三笑亭で時々会いましょう」ということになった。顧みれば戦後第一回目の四三会は昭和二十一年八月二十一日静岡の青森屋で開催して以来、静岡市を中心に開催されていた。主として三笑亭で開催されていた。

また東京四三会も昭和三十一年十一月九日、第一回を人形町の花屋で開催して以来第二十九回を銀座五丁目の木曾路で開いている。近く三十回目を開きたいと思っている。

母校創立百周年記念大会が昭和五十三年十月七日駿府会館で盛大に挙行された。四三会員は卒業五十周年に当り、また四三会は第七十八回目であった。市内の提灯行列に参加してから三笑亭に集合し、記念大会を更に祝福することができたが、会員三十名が集まった。

第八十回目の四三会は葦科川上流の清沢山荘で開催、十五名が出席したが、宿は貸切りで長閑な会合となった。こ

こは永井景君の故郷である。  
第八十五回の大会は熱海の  
梅林近くの西山ホテルで昭和  
五十九年五月八日開催された。  
大阪の平山桂君が遠路出席さ  
れ、東京・静岡から十六名が  
出席した。

そして今回の第百回を迎え  
ることができた。

ここに会合の欠席者各位の  
近況などを添える。(敬称略)

坪 晴行 国立水戸病院名誉院長

塚本猛次 晴耕雨読で元氣 水戸市  
自宅にて療養中 宝塚市

(日建設計相談役)

平山 桂 入院中(医師) 豊中市

山田武夫 旅行中にて欠席、尾張旭市

池谷三郎 脚部痛にて欠席 鎌倉市

北里良夫 療養中(東電) 杉並区

長戸寛美 脚部痛にて欠席 世田谷区

自宅にて弁護士事務所

三宅静雄 体調考慮して欠席

杉並区 東大名誉教授

三好由三郎 心臓を考慮して欠席

千葉市(労働省)

望月孟夫 体調を考慮して欠席

練馬区

荒木禪貞 療養中 光用院住職

静岡市東新田

伊藤 勤 療養中(県警) 鳥田市

石野長次郎 同右(高校教諭)

鳥田市

小沢 基 同右(NHK) 清水市  
竹村千幹 残念乍ら欠席 浜松市

(浜松高工教授)

中野弘雄 療養中(建設会社)

鳥田市

安池健次郎 金沢市へ転居したの

で欠席

御療養中の方も多くて残念  
である。何卒御元氣を取り戻  
されて再び御健勝になられる  
のを祈りあげる次第である。

(西沢純三記)

### 見原三郎君を偲んで

43期 西沢 純三

去る平成十年九月二十四日

静岡三笑亭での米寿記念、第

百回目の記念大会には元氣で

出席されていたのに、九月三

十日に御夫妻で西山温泉に米

寿記念の御旅行に行かれ、十

月一日に突然の心不全で急逝

されてしまった。会員一同も

信じ難い思いであった。

十月四日静岡市営葬儀場の

平安閣にて厳かに葬儀が取り

行われた。四三会員を代表し

て磯谷幸一郎君が弔辞を差上

げた。弔問者も多数参列され

本人の生前の遺徳を偲ばせる

ものであった。御冥福を祈る。

### 五五期

十月三日(土)の正午から、

場所はいつもの新宿区荒木町

「山宮」で、平成十年年度の関

東五十五期会が開催された。

関東五十五期会は、これまで

長い間ずっと「山宮」で開

催されてきた。まだ、はつき

りと決まったわけではないが、

「山宮」では、最近における

諸般の事情から、ここ半年ぐ

らいのうちに廃業するかも知

れないという話が出ており、

もしそうなれば「山宮」での

関東五十五期会は今回が最後

ということになる。

なお、本年度の出席者は次

のとおり。

宗 四朗、戸塚正五、辻弘

長沢栄一、法月重雄

(法月重雄)

### 五六期

平成十年の関東地区同期会

は、十月十九日(月)正午か

ら三時間、昨年と同じ公務員

共済のホテル東京で開かれた。

出席者は、青木良文、石塚

由雄、大野日佐太、奥野進、

川崎博、北村甫、清水逸郎、

鶴岡英彦、戸田栄、西脇光夫、

萩原達雄、萩原仁、  
萩原文平、牧大勝三、  
松田一郎の十五名。

初めに、高橋四郎

君の一周忌に参列し

た北村君から、学生

時代、特に軟式庭球

で高橋君と苦楽を共

にして東早慶のリー

グ戦で優勝したとき

の思い出などの紹介

があった。

昨年は元氣でこの

会に出席し、経済問

題を大いに論じてい

た杉本正也君がこの

一月脳溢血で急に亡

くなった。景氣のこ

となどもう教わるこ

とができなくなり、

まことに残念なこと

である。

今はなき級友たちのご冥福

を祈って黙とうをささげた。

懇談は、萩原達雄君のあい

さつと彼の音頭による乾杯で

始まった。例によって中学時

代の思い出話に花が咲いた。

それから話は多方面にわたっ

たが、中でも最近の不景氣に

ついては、どうもマスコミは

悪いことを強調しすぎている



のではないかという意見が多  
かった。楽しい三時間はアッ  
という間に終り、最後にプロ  
の松田君に一同の写真を撮っ  
てもらった。

正午からの開始は少し早ず  
ぎるとの意見が出て、来年は  
午後一時からの三時間にす  
ることを約して散会した。

(清水逸郎)

## 六 四 期

私たち六四期も人生の秋「白秋」の時期に入ってきた。昨年までくらいで会社勤務も終った者が多く、子供たちも独立し孫も生まれて、悠々自適の生活を始めている。

今年の同期会も七月七日、田町駅前の酒庵「道灌かがり火」で開催、二十八名が賑やかに集まった。

名物男の渡辺素夫君が昨年末脳梗塞で倒れ、千歳船橋の病院でリハビリ中のため、司会には世話人代表名波倉四郎君が務めてくれた。  
実に四十九年ぶりに小倉磐



夫君（東大名誉教授）が出席し、卒業以来の経歴を淡々と話した。カメラに熱中し「カメラ朝日」の監修にも参画、「カメラと戦争」という本は必読に値すると、仲野実君が応援をする。

十年前にNHKを退職、関西の帝塚山学院大学教授に就任し、本年三月退官した遠藤栄君の話、「就任五年間くらいは大変優秀な女子学生が多く楽しかった。マイクを使用せず肉声での講義を心掛けたし、私語をしている学生は教室外へ出してもらった……大事なこととは人の話を良く聞きなさいということ、そして自身

は決して休講をせず、それが皆に信頼されたと思う」と。

塚本光彦君「本年六月に町内会長を辞任したが、つくづく自分ひとりでは何も出来ないことを痛感した」と。

柳田堯君の雨中でのサッカー大会決勝の思い出や、村上喜代二君が父親の百歳長寿記念を兄弟・親族で祝った話等々、感銘深い話が続いた。

## 〈付記〉

栗田行雄君、今年も二科展に入選、おめでとうございませう。また、今夏集中豪雨で水害にあった栃木、増田政雄君の塩原の家は無事だったとのこと、なによりです。

なお、小生は今年も胡弓と地方の唄に引かれて、妻と北陸、能登の旅に出た。暗闇の八尾の街、ぼんぼりの灯が照らす中を鳥追い笠をかぶった男女の豊年踊りは本当に印象深いものでした。

（野沢正憲記）

## 六四期の同期ゴルフ会

五月十四日、小田急西富士ゴルフ倶楽部で開催。参加者十八名。優勝：渡辺進次君、二位：小沢義郎君、BB：漆畑輝夫君。

## 七 七 期

今年（平成十年度）静中・静岡同窓会定時総会の当番幹事として我が七七期が担当することになり（十一月十四日JR静岡駅前のアソシア静岡ターミナルホテルで開催）、そのためには東京からの参加を大いに頼みたいとのこと、五月三十一日に打合せを兼ね久しぶりに東京・静岡の合同ゴルフコンペを箱根で行いました。紹介者は同期の石山建一君（前プリンスホテル野球部監督、現読売巨人軍代表室）で、数々の便宜をはかってもらいました。

まず東京からの参加者は前日の五月三十日に箱根湯本に集合、名物そばで食事をした後、箱根ガラスの森を訪れて園内を散策、今回東京から応援団として参加の同期の元美少女、しかし今もって若々しい五人の女性をモデルに写真などを撮りました。

静岡からの参加者八名を待つて箱根仙石原プリンスホテルに投宿、温泉で汗を流した後、静岡幹事の花村

征三郎君から今年の同窓会総会の準備の様子を聞きました。

講演会の講師としては同期の中川素子さんが「美術の話」をされることが、当番幹事としては何としても参加者を多数確保したいとの要請がありました。

参会者一同、協力を約束してカラオケの入った宴会に移りました。女性の入った酒席は若き日を思い出させて校歌、道遥歌、高校三年生まで出て来ました。その後も夜が更けるのも分らない有様でした。翌日大箱根カントリークラブでは東京の七夕会（七七期から命名）恒例のオネストジョ



ン方式のゴルフコンペを行いました。優勝は最近急速に腕を上げた石山君で、このコンペにそなえて生田(川崎国際)で合宿までやって来た話が披露されました(野球以外でも合宿をやるんだ)。また参加者から数々の賞品が寄せられ、中でも今年のW杯のオフィシャルスポンサーであるビクターの栗田君から多くの品物が提供され、一番の人気はワールドカップ公認サッカーボールでしたが、これは参加者の中唯一小学生の男の子がいる渡辺尚君が持って行きました。ちなみに彼は甲子園準優勝チームの四番バッターです。ハンディゼロで臨んだ小沢君は力がカラ回りして82の十三位、それでも渡辺君と同じベスグロでした。ブラジルから帰国早々の大隅君がこのコースの素晴らしさを話してくれましたが全員納得でした。また今年目民党県連の政調会長になった天野一君が県議会の忙しさの中から参加してくれました。昨晩の二日酔いを含め、女性たちは幹事の花村君がエスコートして箱根観光を楽しんだとのことでした。



## 第51回江の島会

秋の気配がほのかにたまたう9月6日、江の島の恵比寿屋さんで50名が集まって開催された。

総会は奥沢徹氏(59期)の司会で始まり、佐伯正剛会長(51期)が「今年も多数の方々に参加されたことを感謝する。これから楽しく過ごしていただきたい。また、江の島の夕暮れを『屋台いそみ』で見ていただきたい」と挨拶された。

川村春雄同窓会長(46期)から「同窓会会費の納入も順調に行われていることに感謝している。また、平成15年には母校創立125周年を迎えるが、現在行事内容を検討中だが、ぜひ皆さん方のご協力をお願いしたい」と挨拶された。

長澤靖夫校長から母校の活動状況について、「学習ばかりでなく、運動活動も活発でラグビーは県大会で優勝をした。進学率も県のトップレベルを保持している。皆さんの関心事である野球は夏の大会では残念であったが、新チー

ムは力があるので、期待していただいいてよいと思っている」と報告があり、一同熱心に聞き入っていた。

続いて薬科名雄関東支部理事(87期)から関東同窓会の近況報告があった。

また、江の島会に常に出席され、お元気で活躍されていた井出多米夫氏(42期)が8月に逝去されたこと、また、関西支部の平山桂氏(43期)が病氣療養中であることが報告された。

続いて議事に入り、事業報告、会計報告、会計監査報告が満場一致で承認された。

また、懸案になっていた「江の島会50年史」を、ぜひ来年までに作成したいので、皆さんの協力をいただきたいと奥沢氏から要請があった。

総会の最後に「永野清名誉会長(35期)が今年97歳となられ、ますますご壮健で過ごしであることは大変喜ばしいことである」と佐伯会長が話された。

総会に引き続いて、黒田秀幸氏(67期)の司会で懇親会が始まり、甲木怜氏(79期)の音頭で校歌を四番まで斉唱

し、西沢純三氏(43期)の発声で乾杯、宴に入った。

今回は夫妻同伴が4組もあり、いつも増して、和やかな雰囲気、懇談の輪が、宴席一杯に広がっていた。

70期以下の卒業生の参加者が多くなったことから、昭和25年秋から歌われている「逍遙歌」を最後に斉唱して、ひとまず恵比寿屋さんに別れを告げ、例年恒例になっていた橋の上の屋台「いそみ」に会場を移した。

ここでも話は弾んだが、相模湾に夕日が沈む頃、お互いの健康と来年の再会を約して散会となった。

(68期 雨宮明生)

## ひとりひとりのご協力を！

。総会や同期会などの会合には億劫がらずに出席し、楽しい一刻を持ちましょう。

。年会費の拠出者が年を追って減少し、さびしいことです。関東同窓会の運営も難しくなってきました。

。年会費三千円の送金を、至急よろしく願います。

# 回想・随感など

## 静岡の万葉を歩く

(その十七)

51期 原崎 郁平

丸子の金属工業団地に万葉歌碑が建っている。(静岡市北丸子一丁目)

東路(あづまち)の手児(てこ)の呼び坂 越えていなば 吾(あれ)は恋むな後は逢ひぬとも

(巻十四一三四七七)

平成五年四月十八日建立  
揮毫者 村田 保(社長)  
建立者 村田ボーリング技研(株) 従業員一同

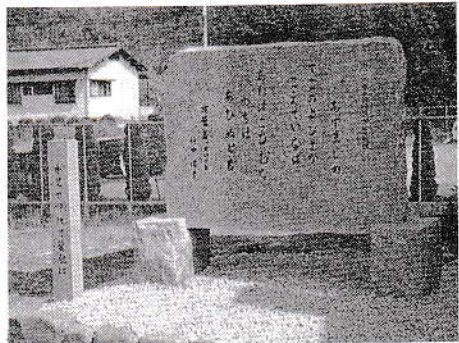
大きさは高さ百センチ、幅百三十五センチ。偏平磨切石で平仮名で書いてある。歌の大意は、「手児の呼び坂を越えて、遠い東国に行ってしまったら、また何時の日にか逢うことができても、今は恋慕の気持ちで胸がつまってしまった」である。

「丸子」は麻呂から由来しており男の子を意味する。「手児」は女の子を示す。

この坂を境に恋する男性と女性とが呼びあっている情景を伝承として

ていることから、「手児の呼び坂」と名付けられた。この歌碑へ行くには、安部川橋を西に渡って宇津ノ谷峠に向かい国道を行くと右手に金属工業団地がありバス停「細工所入口」付近から工業団地の中を徒歩約三分(約三百米)で歌碑に到達する。団地の中に「手児の呼び坂」の碑と説明板がある。

由来として次の文章が書かれている。「我が国最古の東海道の大動脈だった東路(あづまち)は、日本坂を越えて手児の呼び坂を通り、舟山を



経て駿河の国府に通じていま

した。平安朝の頃から宇津の山路が開けると、手児の呼び坂は、丸子を経て手越・国府への道として、江戸初期東海道五十三次の街道が整備されるまで、千余年の長い間、都と東国を結ぶ重要な官道であった。(東路の 手児の呼び坂 越えかねて 山にかなむむ宿りはなしに)をはじめ、三首の万葉歌が残され、紫式部、連歌師宗長、言大納言鳥丸卿等幾多の有名人によって多くの歌が詠まれた東路の歴史と文学を秘めた峠路でした。静岡市観光課

宇津ノ谷峠の近くに「鶯の細道」がある。この地名が登場するのは、在原業平を主人公とする平安時代の「伊勢物語」である。主人公が東(あづま)へくだる途中、宇津の山にさしかかったが、ツタやカエデが茂る暗く細い路で、すっかり心細くなってしまう。この時、偶然旧知の僧と出合い「駿河なる 宇津の山べの うつつにも 夢にも人にあわぬなりけり」という歌を作って京都へ持っていくてもらったという。この一節か

ら「鶯の細道」の地名が生まれた。宇津ノ谷トンネル東側の「宇津ノ谷入口」のバス停から静岡の方向へ少し戻ると道標があり、そこから小さな谷に沿って狭い急な坂を登る。このルートは道標がしつかり

していて道に迷うことはない。山道の周囲は茶畑、竹林、杉林などで、かつてのようなツタやカエデが茂って暗く不気味だった様子はない。約三十分で標高二百米の頂上に着く。ここには昭和四十四年に建てられた在原業平歌碑がある。峠から山道を約二十分ほど下ると平坦な林道に出る。ここに「鶯の細道」の石碑がある。林道を十分ほど歩くとトンネルの西側の坂下の集落に出る。坂下バス停からバスで静岡市内に戻る。

## 「ヘボ」テニス半生

61期 諸田 實

同期の友人に誘われて関東同窓会の総会に出たら、庭球部の卒業生に何人も会った。昭和十六(一九四一)年に入學し、入部した時、主将として面倒をみて下さった岩井平一郎先輩(57期)にお目にか

かったのは五十何年ぶりのことで、お話しているうちに昔のことがおぼろげに浮かんできた。

練習の前に県立(女学校)の辺りまで走ったこと、ボールドへ打った球がプールへよく飛びこんだこと、夏休みの練習の行き帰りに先輩の自転車に乗せてもらったこと、おやつの時間に「一富士」へ氷やキャンデーを買いに行ったこと、すべて懐かしい思い出である。

しかし、それも一年までで、三年になると庭球部は解散、あとは勤労動員、四年卒業と一気に進んだから、ほかに思い浮かぶのはローラー引きや球拾いぐらいで、練習や試合の記憶はほとんどない。

テニスを再会したのは敗戦の翌年、旧制静岡高校二年の時だった。物のない時で、穴のあいたシューズを履いて、配給のボールをすりきれるまで使った。畑になっていたコートで二面復旧した時には、進駐軍放出の金網をリヤカーを曳いて取りに行ったことを覚えてい。それでも三年の夏にはインターハイの関東ゾー

ンで優勝し、秋には静岡市の大会でダブルス優勝した。パートナーの清水汪先輩(59期)の力によるものである。

十年以上の中断があつて、次にテニスを始めたのは昭和三十四年で、福島大学で教壇に立っていた。霜と雪のために十二月から三月までコートが使えなかったが、シーズン中は学生に混じつて週五日はやってゐた。基礎ができていないから、我流の「ヘボ」テニスに固まつてしまつたが、フタバヤの「ミリオンストローク」を愛用してゐた。今でも毎年一回集まつてゐる。

横浜へ来て五、六年してまたテニスを始めた。四十代になつてゐた。勤務先の神奈川大学の愛好会では今でも時々、ひと回りもふた回りも若い人たを相手に汗を流してゐる。八月の河口湖の合宿も今年で二十五回になつたが、日本にいなかった二回を除いて二十三回参加した。何かの拍子で勝つこともあるからやめられない。よく似たもので近頃は勝つた試合のことだけ覚えてゐる。市民大会で0-6から1-7とされたあと七ゲーム

連取して8-7で逆転したシングルスのことは、生涯忘れないだろう。

福島の頃はテニスは三〇歳から、横浜へ来てからはテニスは四〇歳から、還暦になつた時はテニスは六〇歳から、と自分に言いにかけてきた。学生時代に満足にできなかったから、かえつて続けているのかもしれない。体力を必要とするスポーツだからあと何年続くかわからないが、古希を迎えたこれからは「君、テニスは七〇歳からだ」と言つて、若い人たちを煙に巻いてやることのできたらと願つてゐる。

#### W杯フランス大会――

##### 『覗き見雑感』

67期 塩澤 満

ワールドカップ第一回は一九三〇年―昭和五年―ウルグアイで行われ開催国ウルグアイが初優勝を飾り、今年の第十六回大会はご存知フランスで開かれ開催国フランスの優勝で幕を閉じました。

昭和二十年にたまたま静岡中学に入学した私は静岡二年生から城内高(現静岡)そし

て早稲田大学(教育学部)終了までと学生生活の大半をサッカー漬けで過ごしました。

今回は静岡県サッカー協会の客員としてフランス大会での予選二試合を観戦することが出来ました。

以下、私の至らぬ雑見を書かせていただきます。

##### 迷子とスリ

六月十二日、デンマーク対サウジアラビアのゲーム(予選)はランスで行われました。警察官そしてボランティアー、ガードマンの二重三重の厳しい入場チェック、但し関係ガード・誘導員の方々から笑顔のもらえる暖かいムードも漂つておりました。

私にとつて大変だったのはゲーム終了後の退出時の大混雑でした。入退場の階段はたいへんな幅広通路で押し合いへし合い、下り階段で会場外へは無事押し出されはしましたが、同行の若い衆を見失つて、若い衆頼りの私には専属バスの置き場にたどり着けずウロチョロウロチョロ約三十分、やっと同行の救出班が迷子探しに来て下さつてバスに戻る事が出来ました。自らが



とこちらは大物、涼しいお顔でした。

この大会中は、地下鉄パリ北駅のコンコースで「日本の皆様、スリにご注意下さい!!」なる日本語のアナウンスが流されてゐたとの事です。

##### 子供達のワールドカップ

グラウンドではセレモニーそして本番が始まるまでは、子供達のミニゲームがグラウンドを二―三ヶ所に区切つて展開されます。勿論スパイクシューズは使用しませんが、一足お先のワールドカップという次第です。

本当に微笑ましく、いいなあ、という思いでジーンと胸にきた事を美しい芝生とともに、今思い出しております。

##### カズと城

「カズ」君は静岡市の出身。私事で申せば私の亡くなった長男と彼、三浦知良君とは城内小学校でのヤンチャ同士でした。そのカズ君は今年も正月二日に城内小学校グラウンドで「初蹴り会」を主催しております。

そのカズ君はフランス大会では少なくとも、ベンチには必要な「人」だった筈です。

経営する仕事柄もあり恥ずかしさも申し訳なさも人一倍でした。

バスは予定を大幅に遅れてホテルに到着、慙愧々々の一夜でありました。

またこの日は、ご同行のあるご仁が仕掛けられたスリの被害を受けられたそうですが、「なに、大した事はないよ」

これは人情で言うのではありません。チーム内部一岡田学校一での細かい事情は知りませんし、外からしか知らない私ですが、カズというリーグのつかい棒的存在はワールドカップのベンチにも在った方が良く、と思っていたのですが、皆様方は如何でございましたでしょうか。

次はフランスでの「城」、対外試合での城を観ておりまして私は、自身の大学一年の時を想起してしまいました。私は大学新人の時から一部リーグ全てのゲームにフォワードとして出さして貰いましたが、確かに何でこんな若輩を監督さんは使ってくれるのだろうかと或る意味での疑問を持っていた事を思い出しました。

時の監督さんは戦前のベルリンオリンピックのレギュラーでバックス。とに角ゴールを死守する頼りがいのある方です。又理論的サッカーを説かれ大学の教授でもありました。今でも有難い思い出一杯ですが私の起用は現在でも良く解りません。只々ひたすら一生懸命には動き廻ったつもりではあります。

何だか城のプレーを見てみると、そんな事を考えさせられてしまいましたので自分でも意味不明ですが書いてみました。

**サッカーに大いなる拍手を**  
六月十四日、日本対アルゼンチン戦はトゥールーズで行われました。

とに角勝たねばならぬ日本の大応援団は入場前から燃えに燃え上がりました。片やアルゼンチンは余裕たつぷり。ゲームは客観的に見ても勝ち目は薄かったと思います。但しサッカーという勝負はかなりの実力差があっても逃げ切るパターンが訪れる場合もあります。一点は絶対必要です。ゼロ点は無限大のゼロです。

アルゼンチンも出来が悪かったのですが、彼等の予定は序々にチームの調子を上げてゆく処にあります。果して虎の子の一点のみで勝利しました。あとはクロアチアとの一戦に望みを残すのみでしたが、残念ながら善戦ならず日本は破れました。

今からは二〇〇二年に備えるのみです。新監督トルシエ

氏の手腕と伸び盛りの若手に地元での期待は大いにふくれ上がります。何の世界でも、今から伸びる、追いかける方が期待が持てます。その意味からは今からが世界のサッカー界に飛躍する時期に入つて来たものと確信するものです。

最後にファンの方々には是非お願いしたいのは生気を申し上げるようですが、ゲームの善し悪しにも大きな拍手を送っていただきたいと思うのです。観衆は勝ち負けのみにこだわらず良いプレーに拍手する、そんな楽しみ方が増せば増すほど日本のサッカーも強くなって参ることでありましょう。

数多いスポーツイベントの最高峰であるワールドカップ、名勝負の数々はこれからも世界中の人々を魅了して止まないものと確信しております。ジュール・リメに乾杯!! サッカーよ有難う!!

### 杉山 有さんの画業

68期 荒谷じつ子

我が期の人、来年三月で、皆六十五歳になる。そろそろ、第二の人生がほとんどと思う。

私も子育てが終り、意欲の衰えを感じ老いを意識しました。そんなこの夏、同期の杉山有(旧名・勇)さんが一ヶ月の長い間、新宿パークタワー一階の大壁面で、パークタワーアートプログラムの依頼により「久遠の光と音の彼方に」の個展を開かれた。孔雀や蝶が乱舞する曼陀羅風の日本画や、縦四メートル、横十メートルの巨大な山水画等である。

杉山さんは静高卒業後、独学で今日の道を開かれた異質の芸術家である。一九七〇年代、パリの秋花祭のポスターに選ばれて以来、ヨーロッパで「宇宙を画く東洋の画家」と有名な美術誌に取りあげられたり、パリ市から銀メダルを受賞したり、フランス国立図書館に花のリトグラフが収録されたり、数々の個展を開かれ、日本より外国で大活躍である。

十数年前、銀座和光での個展の折、ルノアールが好まきぐらいで、何も解らないまま同窓のよしみで、三十号位の画を求め、居間にかけておいた。何とも不思議な画で、いつも、多忙で疲

れ切っている私の気持をスーッとなごませ落着かせてくれる。今回在京の女子四人の同級生と伺い、すばらしい画に感動、喜びを分かちあえた。その折求めた、画集の表に書かれた、坐寂耀の文字、あーこれだと思った。次のイタリアでの個展、これからの夢一杯の青春真っ只中の彼に元気を戴き、これからの道しるべを得た。

島田市尾川にアトリエ「有」を持ち、これからは世界で益々御活躍なさる杉山さん、我が静高のスパラシイ誇りと皆で応援いたします。



## 静岡だより(1)

## 静岡野球部最新情報

第80回夏の記念大会は、ノースードで参加する。強力打線との前評判であったが、4回戦で選抜出場の島田商を降したのが精一杯。準々決勝、掛川西高に惨敗した。

10-0 新居高  
7-0 沼津東高  
12-5 桐陽  
5-2 島田商  
6-11 掛川西高

確実に加点すべきチャンス  
を雑な攻めで潰し、守りでは、  
不安定な投手力をミスで足を  
引っ張る。これでは勝目はな  
かった。

◇ ◇ ◇  
ゲームの流れの中で、大きく  
変化する場面が必ずある。  
チャンスもピンチも含めて、  
これを「危機管理」という考  
えで捉えてみる。

危機に対する情報の収集・  
分析が、その後の結末に、重  
大な影響をもたらすものであ  
る。各個人が常日頃から意識  
的に考えながら、その営みを

やってゆかなくては、咄嗟の  
場面で実践できるものではな  
い。

甲子園の準々決勝・横浜対  
PLの延長17回戦で、グラウ  
ンドにこの場面が随所に展開  
したのである。その一例を挙  
げてみよう。

試合の前半、横浜・松坂投  
手の球種は、完全に見破られ  
ていた。それは、PL・サイ  
ドコーチャーの状況分析力に  
よる。彼は、横浜の捕手のミッ  
トの構えから、直球と変化球  
を投球前に見抜き、バッター  
にメッセージを送っていた。

それまでになく痛打されつ  
放しの松坂。これはおかしい  
と感じたのは、横浜控えの選  
手だ。PL・サイドコーチャー  
のバッターへのメッセージを  
聞き取り、球種が盗まれてい  
たことをバッテリーに伝える。  
すると、それからのPL打線  
が、ピタッと沈黙したのだ。  
精神主義ばかりを注入しが  
ちな「全員野球」に、密度の  
濃い「考える野球」の指導理  
念を提供している。

“one for all”——横浜・松  
坂投手のモットーだ。練習時  
にも、このモットーで集中力

を養っておくことが、今後の  
高校野球の課題となるだろう。

◇ ◇ ◇  
秋季県大会

一回り小粒に  
なった新チーム。が投手力は  
安定度を増している。期待の  
右腕・市川と成長甚しい左腕・  
高木の二本柱で、中部1位で  
県大会に入った。

5-0 沼津市高  
1-0 静岡市高  
7-6 島田高  
4-2 浜名高

投手力を含めた守りの堅実  
さが何よりも大事、これを地  
道に行ったような試合運びで  
勝ち進む。八年ぶり九度目の  
優勝である。

チーム結成以来24勝1分け  
の戦績で、強力チームひしめ  
く東海大会へ出場することに  
なった。

◇ ◇ ◇  
秋季高校野球東海大会

長い、長いトンネルであつ  
た。巨きな父親・甲子園と、

「東邦」という名前に惑わさ  
れ、情報分析力に冷静さを欠  
いていた。しかし、左腕・高  
木の無類の好投と、築地の本  
塁打で機先を制し、4-1と  
快勝する。決勝は海星に6-  
3で惜敗。

母校関係者に、喜びを与え  
てくれた指導者、そして選手  
たちに感謝したい。ありがと  
う!!

(写真提供・静岡新聞社)  
(67期 法月郁雄)

## ◎事務局へのご連絡は:

〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13  
山中ビル タカラ歯科医院内  
静岡・静岡東同窓会  
薬科名雄(87期)

(電)〇三-三七九二-三五八〇  
(午後2時~6時の間)



東邦との準決勝、一回表四番築地が2ランを放つ!

## 静岡だより(2)

お茶とミカンで  
がん対策

がんの予防にお茶が効く、  
渋み成分カテキンの効用がま  
たまた話題になっていきます。

がんの予防ばかりでなく、美  
容効果、住環境の改善、衣料  
への利用——そんな折り静岡  
県茶業会議所から、健康食品

の新しい緑茶効能を特集した  
小冊子「続・読むとお茶が呑  
みたくなる本」(A5判68ペー  
ジ、一部三百円)が発刊され  
ました。「がんの予防効果」

「緑茶のA157の殺菌効果」  
「健康食としての茶」など十  
二項目の緑茶に関する研究成  
果が分かりやすく掲載されて  
います。

静岡でお茶といえばミカン、  
そのミカンにも、大量に発がん  
抑制物質が含まれていると  
分かって柑橘業界が活気づい  
ています。

今年五月農水省果樹試験場  
柑橘部(清水市興津)が発表  
した、ミカンの色素である  
「β-クリプトキサンチン」  
に発がん抑制作用がある——

というものです。一日ミカン  
を——三個食べることで健康  
増進効果が期待でき、他のオ  
レンジ類などに比べ、温州ミ  
カンには六十倍も含まれてい  
るといいます。

県農水部や丁A静岡経済連  
などで「温州みかん機能成分  
活用協議会」が設立され、新  
商品の開発、消費、宣伝、品  
種や栽培法の研究が始まりま  
した。

「みかんはすごい!」健康  
わしづかみ!「おいC(しい)  
毎日食べて健康家族」などの  
小冊子やキャッチコピーが目  
にとまることと思います。

## 「二本目の葵」に期待

平成十二年のNHK大河ド  
ラマ「葵——徳川三代」に合  
わせて、静岡市が計画してい  
る「静岡「葵」博覧会(仮

称)。市議会の九月定例会で  
小嶋善吉市長は「十分なイベ  
ントスペースがとれる東静岡  
地区(旧多目的アリーナゾー  
ン)をメイン会場に、駿府公

園を第二会場にやく一年間開  
催したい」と答弁しています。  
駿府城と江戸時代初期の町  
並みを再現して、徳川家ゆか  
りの地としての静岡市の歴史

と文化の紹介やドラマ関連の  
展示など。本年度中に官民一  
体の実行委員会が発足の予定  
といっています。

(67期 光木 徹)

## 木版画と私

74期 浦田 周社

「甦れ静岡、行かざあ甲子  
園!!」を合言葉に、野球部後  
援会が田宮俊作新会長(69期)  
のもと新しく出立した途端、  
それが現実となり夢心地です。

この文を書き始めた今日十  
一月七日実況放送で東海四県  
大会準決勝で愛知一位の東邦  
高に勝利した事を確認しまし  
た。そこで、丁度十年前静岡

より校舎竣工記念品として依  
頼された木版画と付記した文  
をここに紹介させて頂きます。  
木版画『岡辺万だの花ふる

い』によせて

この版画を見て、  
岳南健児一千の……

(校歌)、龍爪の雷

雨を呼び(応援

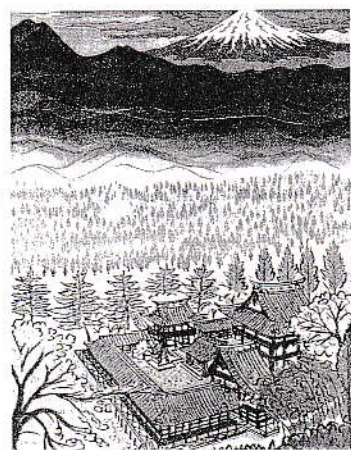
歌第二)、万衆と

句え、花ざくら

(道遥歌)と口ず

さんだ方もあろう

かと思っています。私



も詞の作者と同じ場所、同じ  
気持ちで版画にしてみようと常々  
考えていました。春、桜満開  
の頃、静岡市民が待ちに待っ  
た浅間神社廿日会祭が行われ  
ます。(中略)大昔にタイム  
スリップして、須琉珂京<sup>スルコウキョウ</sup>が  
出現していたなら(中略)こ  
んなすばらしい楽園のような  
ところに位置する静岡高校の  
生徒諸君には新たな学舎を得  
て、益々勉学に邁進できフア  
イトの湧く事でしょう。(中  
略)平成元年一月十五日。  
と以上題名を応援歌からつけ  
ました。来春、晴れて甲子園  
行きを楽しみにしています。  
こちらよろしく!!

☆『東海道道中記』文宝井馬琴  
木版画浦田周社 静岡新聞日曜  
版一月四日より八月二十三日  
迄34回掲載され大好評でした。

静岡新聞社から十二月中旬発  
売予定 定価二八〇〇円(税  
別) A四判上製本

☆『第五回浦田周社木版画展』  
平成十一年四月十五日(木)  
二十日(火) 銀座松坂屋の別  
館4階画廊において  
何卒ご高覧、ご支援のほど  
お願いいたします。

「会報」編集子より

○毎号バラエティーに富んだ原  
稿を寄せてくださる方々に、心  
から感謝申し上げます。

同窓会員の絆をより強くとの  
願いをこめて、さらにより充実  
した誌面になるよう、一層のご  
協力をお願いいたします。

○各期幹事諸兄姉のご尽力で同  
期会を開催し、その報告を会報  
にどしどしご寄稿ください。

○原稿尊重を建て前としており  
ますが、加筆や訂正させていた  
だく場合もあります。その点ご  
了承ください。

○提供の写真について、返却の  
必要があるかどうか書き添えて  
いただければ幸いです。

○原稿依頼や掲載広告について、  
候補と思われる方を事務局まで  
お知らせくださいますようお願い  
いたします。

## 鈴与株式会社

取締役社長 鈴木 通弘 (76期)

清水市入船町11-1

TEL 0543 (54) 3015 (秘書課)

京浜支社 東京都港区芝公園1-2-12

TEL 03 (3432) 7151



## 新日本証券

相談役 大石 巖 (53期)

本店 / 東京都千代田区神田駿河台3-11

☎ 03 (3219) 1111

建設コンサルタント・設計施行業務  
建築に関する御相談はお気軽に……

## 株式会社 大雄

取締役会長 奥野 孝 (53期)

本社 東京都台東区東上野2-18-7 共同ビル10階

TEL 03-3834-5331 (代表)

## 日本レーベル印刷株式会社

代表取締役 岩井 平一郎 (57期)

本社 静岡市国吉田3丁目1番1号

TEL 054 (262) 1111 (代)

東京 中央区京橋1-1-6 越前屋ビル8F

TEL 03 (3272) 4651 (代)

自動車・電機部品の自動塗装及びシルクスクリーン印刷

## 株式会社 勝山塗装工業所

代表取締役 奥澤 徹 (59期)

本社 横浜市瀬谷区橋戸3-25-6

Tel 045-301-5545 FAX 045-301-5547

大和工場 大和市深見3706-1

Tel 0462-62-0340 FAX 0462-62-0343

東松山工場 東松山市新郷88-47

Tel 0493-24-2511 FAX 0493-24-2513

## 株式会社 富士越

## 株式会社 富士越化成

代表取締役 野澤 正憲 (64期)

東京都渋谷区東2-14-9

TEL (3409) 3342 (代)

TEL (3400) 9541 (代)

自動車・火災・傷害保険  
比べて下さい。安く確かな保険を。

## 大高保険事務所

代表 清水 雅尚 (77期)

渋谷区東3-15-8

TEL 3406-9350

PHS 050-103-8920

同窓会で人の輪を!!

## 野方重人法律事務所

弁護士 野方 重人 (77期)

〈事務所〉

〒101-0045 千代田区神田鍛冶町3-7-3

敷下ビル6階

(TEL) 03-3251-2348

(FAX) 03-3257-0820

☎ 昼2時より夜11時まで診療 ☎

## タカラ歯科診療所

代表 齋 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車徒歩5分

TEL 0120-376480

調剤薬局……首都圏に28店舗。

## 株式会社 アイセイ薬局

医薬分業は 弊社へどうぞ

代表取締役 岡村 幸彦 (93期、応援指導部)

東京都中央区日本橋蛸殻町2-14-5

TEL 03-5643-8225

E-mail okamura @ aisei.co.jp